

海外の畜産物の需給動向

牛肉

米 国

1～4月の牛肉輸出量、中国向けは前年同期比14倍に

5月の牛肉生産量、前年同月比18.5%増

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）が毎月更新する「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年5月の牛肉生産量は前年同月比18.5%増の100万3000トンと前年同月を大幅に上回った。この要因は、前年同月の生産量が新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の流行に伴う食肉処理場の稼働率低下で大きく減少したことなどによるものである。一方、COVID-19拡大前の2019年同月との対比では、1日当たりのおと畜頭数および1頭当たりの枝肉重量がともに上回ったものの、2021年5月はと畜場稼働日数が2日少なかったことから、生産量は5.0%減となった。また、5月の成牛と畜頭数全体に占める雌牛と畜割合は47.8%と2019年同月を2.0ポイント上回った。これは、飼料コストの上昇などで肥育牛および子牛の生産者の収益の見通しが悪化していることが一因とみられる（図1）。

USDA/ERSの「Livestock & Meat Domestic Data」によると、2021年5月の牛肉卸売価格は、前年同月比21.7%安の100ポンド当たり318米ドル（1キログラム当たり785円：1米ドル=112円）となった（図

図1 牛肉生産量の推移

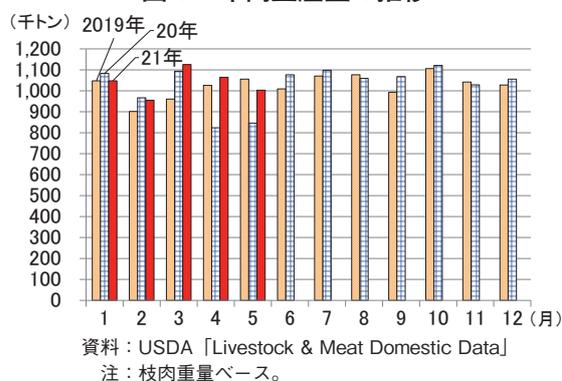
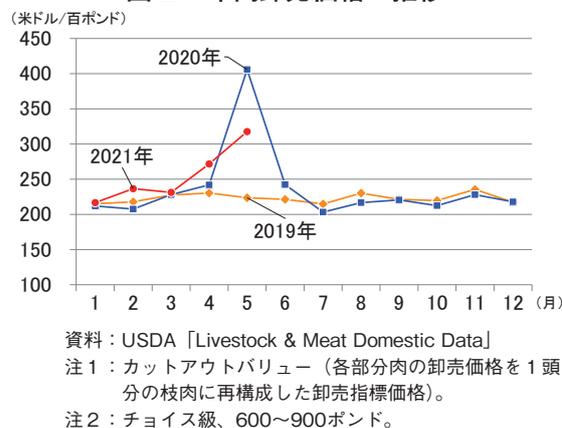


図2 牛肉卸売価格の推移



2)。なお、前年はCOVID-19の拡大に起因する市場の混乱があったことから、単純な比較は困難となっており、2019年同月との対比では42%高となっている。これは、米国内での飲食店の再開に伴う外食需要の回復や中国向けなどの好調な輸出需要を背景に、在庫が冬場から大きく減少したことが一因とみられる。

なお、米国の牛肉卸売価格は例年、夏場の需要期を迎える5月ごろから上昇し、7月4日の独立記念日周辺をピークに低下した後、9月第1月曜日のレイバーデー(労働者の日)に向け再び上昇する傾向があり、現地情報によると、今年も例年通りの動きになるとの見方もある。

牛肉輸出量、中国向けが大幅増

USDA/ERSの「Livestock and Meat International Trade Data」によると、2021年1～4月の牛肉輸出量は49万1500

トン(前年同期比7.9%増)とかなりの程度増加し、引き続き記録的な水準となっている(表1、図3)。米国食肉輸出連合会(USMEF)によると、主要輸出先では前年の市場環境からおおむね改善しているものの、台湾などでは新型コロナウイルス感染者の増加で状況が悪化しており、パンデミック(世界的大流行)は米国食肉業界にとって依然として大きな懸念材料とされている。また、米国の多くの港湾ではコンテナ不足や船舶の混雑が続いており、これも輸出の大きな障害とされている。主要輸出先別に見ると、中国向けが際立つ

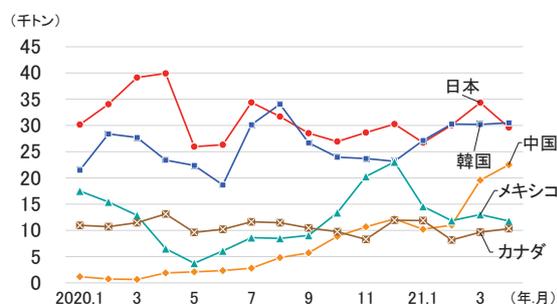
表1 輸出先別牛肉輸出量

(単位:千トン)

	2021年4月		2021年(1～4月)		シェア
		前年同月比(増減率)		前年同期比(増減率)	
日本	29.6	▲25.8%	120.8	▲15.7%	24.6%
韓国	30.5	30.4%	118.1	17.0%	24.0%
中国	22.5	1,080.4% (約11.8倍)	63.3	1,308.1% (約14.1倍)	12.9%
メキシコ	11.8	80.6%	51.2	▲2.1%	10.4%
カナダ	10.3	▲21.3%	40.1	▲13.5%	8.2%
台湾	7.5	4.2%	25.2	▲14.3%	5.1%
香港	4.1	▲39.2%	21.3	▲13.8%	4.3%
その他	13.9	76.9%	51.5	▲4.7%	10.5%
合計	130.2	22.1%	491.5	7.9%	100.0%

資料: USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注: 枝肉重量ベース。

図3 主要輸出先別牛肉輸出量の推移



資料: USDA「Livestock and Meat International Trade Data」
注: 枝肉重量ベース。

て増加しており、2021年4月までの累計輸出量はすでに2020年(1～12月)の年間輸出量を上回っている。4月の日本向けは、前年同月比25.8%減となった。USMEFは、3月18日から30日間発動した米国産牛肉に対するセーフガードの影響などによるものとしている。なお、台湾向けは、COVID-19感染者の増加に伴う飲食店での店内飲食の制限などにより、5～6月の輸出量は減少が予想されている。

(調査情報部 河村 侑紀)

肉用牛価格が高騰、輸出量は低位で推移

EYCI 価格の高騰止まらず、過去最高を記録

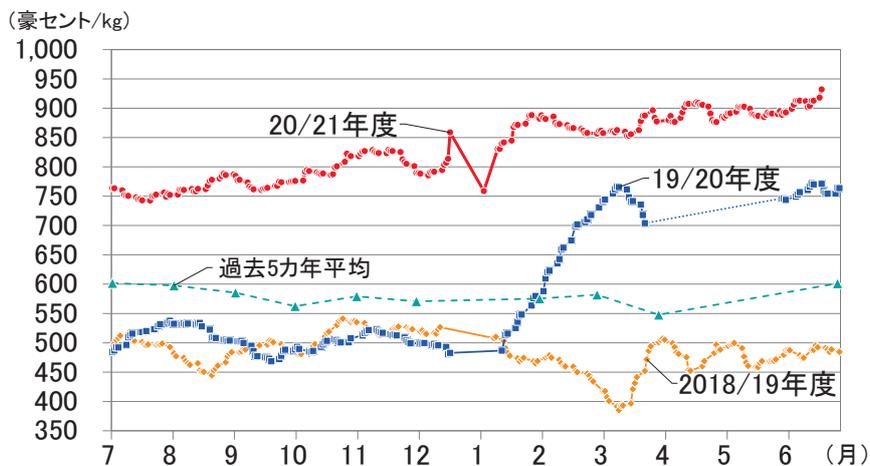
豪州食肉家畜生産者事業団（MLA）によると、肉牛生体取引価格の指標となる東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、6月22日に過去最高となる1キログラム当たり932.5豪セント（793円：1豪ドル=85円）を記録した（図4）。

肉牛の主産地である東部地区では、冬季の間も降雨が定期的であり、豪州気象庁（BOM）による今後の気象見通しでも引き続き降雨が

見込まれることから、肉牛を保留する動きが加速している。またMLAは、これらの豪州の状況に加え6月15日に発表された豪英FTAの合意^(注)、また、世界的な牛肉供給不足や新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の近況を踏まえた外食産業の回復などの環境変化が、EYCI価格の高騰に拍車をかけているとしている。

(注) 海外情報「豪英FTAが合意(その2：豪州側の反応)」
(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002971.html) を参照されたい。

図4 EYCI価格の推移



資料：MLA

注1：年度は7月～翌6月。

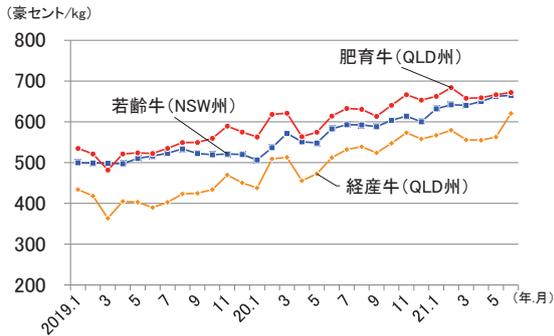
注2：東部地区若齢牛指標（EYCI）価格は、東部3州（クイーンズランド州、ニューサウスウェールズ州、ビクトリア州）の主要家畜市場における若齢牛の加重平均取引価格で、家畜取引の指標となる価格。肥育牛や経産牛価格とも相関関係にある。

注3：2020年3月26日～6月1日の間は、新型コロナウイルス感染症の影響でEYCI価格の集計を実施していない。

東部地区の主要州の肉用牛生産者販売価格も軒並み上昇傾向で推移している。6月のニューサウスウェールズ（NSW）州の若齢牛価格は1キログラム当たり665豪セント（565円）、また、主に日本市場向けとされ

るクイーンズランド（QLD）州の去勢肥育牛価格は同672豪セント（571円）、同じく主に米国向けのハンバーガー用パテとして使用される経産牛の価格は同620.5豪セント（527円）となっている（図5）。

図5 肉用牛販売価格の推移



資料：MLA

輸出量は依然低い水準だが、韓国向けの牛肉輸出が存在感

豪州農業・水・環境省 (DAWE) によると、2021年5月の牛肉輸出量は7万6499トンとなり、前月(7万2502トン)からはやや増加(前月比5.5%増)したものの、と畜頭数の減少などにより前年同月比22.4%減と大幅に減少した。また、1～5月の累計でも34万8861トン(前年同期比23.7%減)と大幅に減少した(表2)。

表2 輸出先別牛肉輸出量の推移

(単位：トン)

	2020年 5月	2021年 5月	前年同月比 (増減率)	2021年	前年同期比
				(1～5月)	(増減率)
日本	23,495	21,865	▲6.9%	90,890	▲21.7%
中国	24,344	13,792	▲43.3%	60,385	▲42.1%
韓国	13,780	13,018	▲5.5%	63,701	1.9%
米国	20,517	11,560	▲43.7%	53,070	▲40.0%
東南アジア	8,443	7,601	▲10.0%	40,028	▲9.7%
中東	1,476	2,263	53.3%	12,522	19.8%
EU	847	639	▲24.6%	3,493	▲18.3%
その他	5,663	5,760	1.7%	24,772	▲7.8%
輸出量合計	98,565	76,499	▲22.4%	348,861	▲23.7%

資料：DAWE

注1：船積重量ベース。

注2：東南アジアは、フィリピン、タイ、マレーシア、シンガポール、インドネシアの合計。

注3：中東は、イラン、イラク、シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、サウジアラビア、クウェート、バーレーン、カタール、オマーン、イエメン、エジプト、パレスチナ自治区、アラブ首長国連邦を構成する七つの首長国のうち四つの首長国(アブダビ、ドバイ、フジャイラ、ラアス・アル＝ハイマ)の合計。

5月の牛肉輸出量を輸出先別に見ると、日本向けは2万1865トン(前年同月比6.9%減)とかなりの程度減少し、1～5月の累計では9万890トン(前年同期比21.7%減)と大幅に減少している。中国向けは1万3792トン(前年同月比43.3%減)、1～5月の累計でも6万385トン(前年同期比42.1%減)とともに大幅に減少している。また、米国向けも1万1560トン(前年同月

比43.7%減)、1～5月の累計でも5万3070トン(前年同期比40.0%減)と、ともに大幅に減少している。

一方、韓国向けは1万3018トン(前年同月比5.5%減)とやや減少したものの、1～5月の累計では6万3701トン(前年同期比1.9%増)とわずかに増加している。この動きに対しMLAは、韓国向けが比較的堅調であるのは、COVID-19の影響による同国国

内のオンラインショッピングを通じた牛肉の需要増のほか、外食産業の回復が見られていることに起因しているとしている。また、韓国の一人当たり年間牛肉消費量は13キログラムとアジアで最も多く、増加傾向で推移す

る中、同国の牛肉消費量の約3分の2を占める輸入牛肉のうち豪州産は消費者から一定の評価を得ていることから、韓国向け牛肉輸出の見通しは明るいとしている。

(調査情報部 国際調査グループ)

豚 肉

米 国

豚肉卸売価格、米国内外からの高い需要を背景に高水準

2021年6月の総飼養頭数、前年比2.2%減

米国農務省全国農業統計局 (USDA/NASS) の「Hogs and Pigs」(四半期報告)によると、2021年6月1日時点の豚総飼養頭数は、繁殖豚頭数、肥育豚頭数ともに減少したことから、7565万3000頭(前年比2.2%減)となった(表3)。また、3~5

月期の分娩母豚頭数、産子数、1腹当たりの産子数も減少しており、前回(3月1日時点)に引き続き、前年と比べ豚群は縮小している。USDAによると、母豚価格が大幅に上昇し、生産者は繁殖豚を導入しにくくなっている状況にあると分析している。また、現地報道によると、米国内で豚繁殖・呼吸障害症候群(PRRS)が発生していたことが、1腹当たりの産子数減少の一因とされている。

表3 豚飼養頭数の推移

(単位:千頭)

	2020年	2021年	前年比 (増減率)
総飼養頭数(6月1日時点)	77,364	75,653	▲2.2%
繁殖豚	6,326	6,230	▲1.5%
肥育豚	71,038	69,423	▲2.3%
50ポンド(23キログラム)未満	22,110	21,474	▲2.9%
50~119ポンド (23~53キログラム)	19,890	19,349	▲2.7%
120~179ポンド (54~81キログラム)	15,240	15,010	▲1.5%
180ポンド(82キログラム)以上	13,797	13,589	▲1.5%
分娩母豚頭数(3~5月)	3,149	3,067	▲2.6%
産子数(3~5月)	34,644	33,584	▲3.1%
1腹当たり産子数(3~5月)(頭)	11.00	10.95	▲0.5%

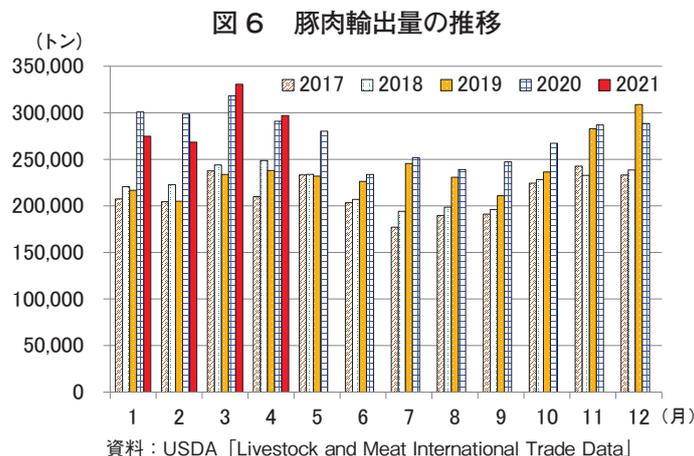
資料: USDA「Hogs and Pigs」

注: 計数は、四捨五入のため、合計において一致しない場合がある。

豚肉輸出は、前年から引き続き堅調に推移

米国農務省経済調査局（USDA/ERS）の「Livestock and Meat International

Trade Data」によると、2021年4月の豚肉輸出量は29万7100トン（前年同月比2.1%増）となり、海外からの強い需要を受けて堅調に推移した（図6）。



輸出先別に見ると、中国・香港向けは、これまでと同様に輸出先の中で大きな割合を占めているものの、中国国内の養豚生産が回復してきている^(注)ことから4月の輸出量は前年同月比35.3%減の6万9400トンと大幅に減少した。一方、メキシコ向けは主に加工用として利用されるものの、新たにスーパーやコンビニエンスストアなど小売需要も高まったことで同55.5%増と大幅に増加した。ま

た、フィリピン向けも、同国内で発生したアフリカ豚熱による国内の豚肉供給量の減少を受け、4月に一時的に関税率を引き下げたことから輸出量が増加し、これらが中国・香港向けの減少分を相殺する形となった（表4）。

(注) 『畜産の情報』2021年6月号「中国国内の豚肉生産は回復基調で推移」（https://www.alic.go.jp/joho-c/joho05_001668.html）を参照されたい。

表4 米国の輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

	2020年 4月	2021年 4月	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年 (1~4月)	前年同期比 (増減率)
メキシコ	44.8	69.7	55.5%	23.5%	261.6	8.1%
中国・香港	107.4	69.4	▲35.3%	23.4%	278.6	▲26.3%
日本	55.3	47.4	▲14.3%	16.0%	196.7	▲2.3%
韓国	21.0	23.3	11.2%	7.9%	88.9	▲3.6%
カナダ	16.4	20.8	27.3%	7.0%	87.5	1.7%
フィリピン	2.6	17.7	570.4% (約6.7倍)	5.9%	47.7	365.7% (約4.7倍)
コロンビア	6.8	9.1	35.0%	3.1%	42.3	24.9%
豪州	9.2	8.3	▲9.3%	2.8%	38.5	▲16.3%
ドミニカ	4.4	6.0	34.1%	2.0%	29.0	43.2%
その他	23.0	25.3	9.8%	8.5%	100.2	1.9%
合計	290.9	297.1	2.1%	100.0%	1,171.1	▲3.1%

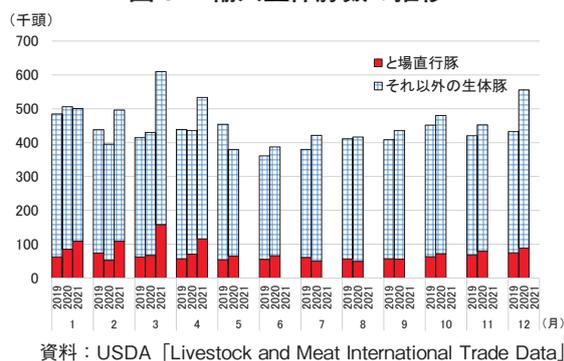
資料：USDA「Livestock and Meat International Trade Data」

注：枝肉重量ベース。

生体豚輸入頭数、大幅に増加

豚飼養頭数の減少を受けて、4月の生体豚の輸入頭数は53万3533頭と前年同月比22.5%増となった。その中でも、50キログラム以上のと場直行豚の輸入頭数が2021年に入ってから増加傾向で推移し、4月は前年同月比63.9%増の11万5712頭となった(図7)。飼養頭数の減少に加え、米国での新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のワクチン接種が進む中で、外食産業の再開などにより豚肉需要が増加していることも輸入豚、特にと場直行豚の輸入を後押ししたとみられている。

図7 輸入生体豚数の推移



肥育豚価格、前年同月比74.1%高

米国内外での豚肉需要の高まりなどから5月の豚肉の冷凍在庫量は前年同月比1.5%減の20万9170トンと減少している(図8)。また、2021年5月の豚肉卸売価格(カットアウトバリュー(注))は、同11.0%高の100ポンド当たり117.46米ドル(1キログラム当たり290円:1米ドル=112円)となり、21年1月から前年同月を上回って推移している(図9)。また、肥育豚価格も高水準で推移しており、5月は同74.1%高の100ポンド当たり81.01米ドル(同200円)と大

幅に上昇した(図10)。今後の肥育豚価格についてUSDAは、第3、第4四半期の肥育豚価格を過去の季節的傾向に基づく下げ幅を上方修正しており、21年の肥育豚価格は平均して同70米ドル(同173円)前後と予想している。

(注) 各部分肉の卸売価格を1頭分の枝肉に再構築した卸売指標価格。

図8 豚肉冷凍在庫量の推移

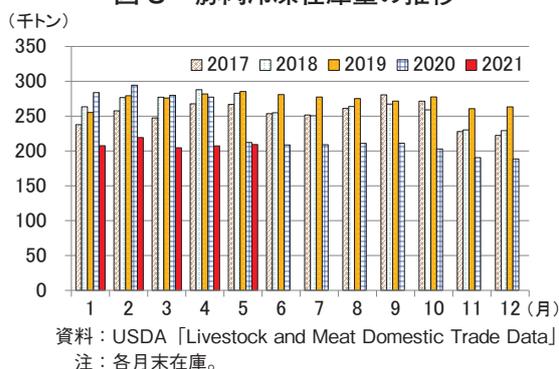


図9 豚肉卸売価格の推移

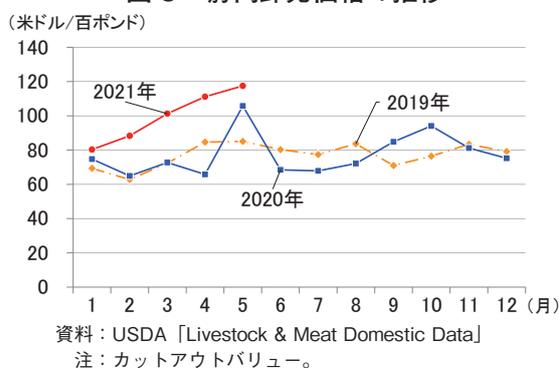
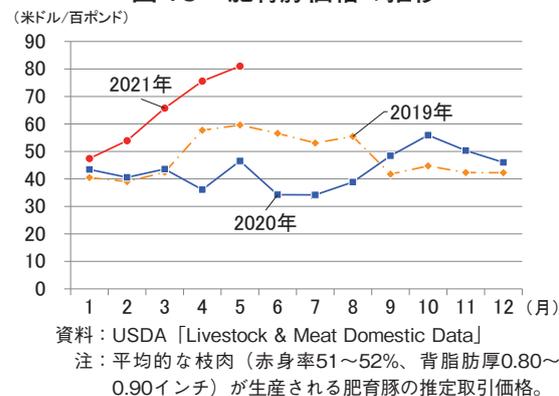


図10 肥育豚価格の推移



(調査情報部 上村 照子)

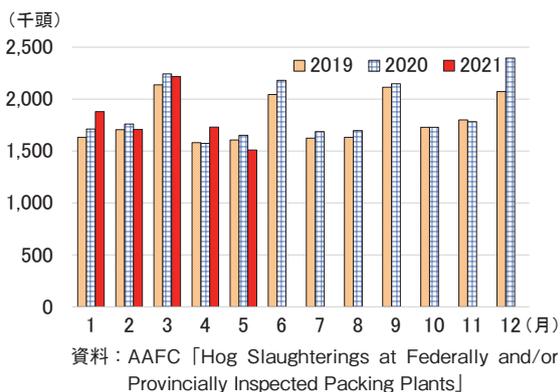
カナダ

1～4月のカナダの豚肉輸出量が好調、肥育豚価格は上昇傾向

国内外の豚肉需要の高まりを受け、肥育豚価格が上昇

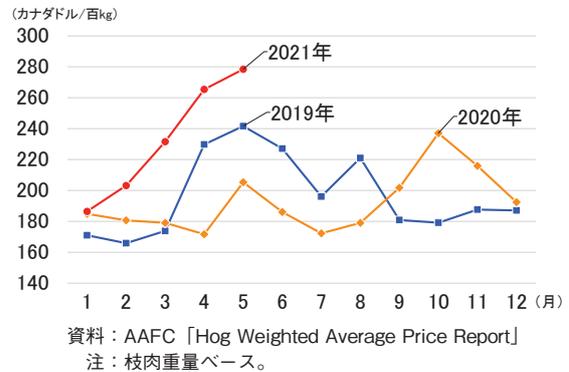
カナダ農業省（AAFC）の「Hog Slaughtering at Federally and/or Provincially Inspected Packing Plants」によると、2021年5月の豚と畜頭数は151万頭（前年同月比8.6%減）と減少したが、同年1～5月の累計では904万4000頭（前年同期比1.2%増）と前年をわずかに上回って推移している（図11）。

図11 豚と畜頭数の推移



一方で、AAFCの「Hog Weighted Average Price Report」によると、2021年5月の肥育豚価格は100キログラム当たり278カナダドル（2万5298円：1カナダドル=91円）（前年同月比35.6%高）と大幅に上昇した（図12）。AAFCでは、2021年2月以降、肥育豚価格が大幅な上昇傾向で推移している背景として、カナダを含む北米における夏場のバーベキューシーズンに向けた豚肉需要の高まりと新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響を受けた外食産業の再開に加えて、米国での豚肉在庫の減少などを

図12 肥育豚価格の推移



挙げている。また、カナダ農業公社（FCC）は、中国をはじめとするアジアやヨーロッパでのアフリカ豚熱の発生と中国をはじめとするアジアの豚肉需要の高まりが依然として肥育豚価格の上昇の要因となっていると推察しており、中でも輸出先として大きな割合を占める中国の豚肉生産量と輸入量の今後の動向に注目している。

豚肉輸出量、前年と比較して引き続き好調に推移

カナダ統計局（Statistics Canada）によると、2021年4月の豚肉輸出量は10万5500トン（前年同月比8.0%増）とかなりの程度増加した（表5）。輸出先別に見ると、最大の輸出先である中国向けは3万1900トン（同41.3%減）と中国国内の豚肉生産量が回復傾向にあることから大幅に減少したが、依然として同国でのアフリカ豚熱の発生による影響は続いており、輸出先としてはトップを維持している。次いで輸出量の多い米国向けは2万1000トン（同59.3%増）と大幅に増加し、日本向けも1万8500トン（同15.9%増）とかなり大きく増加している。

また、アフリカ豚熱の発生が続いていたフィリピン向けも、同約5.3倍の1万2700トン

と引き続き高水準で推移している（表5、図13）。

表5 輸出先別豚肉輸出量の推移

(単位：千トン)

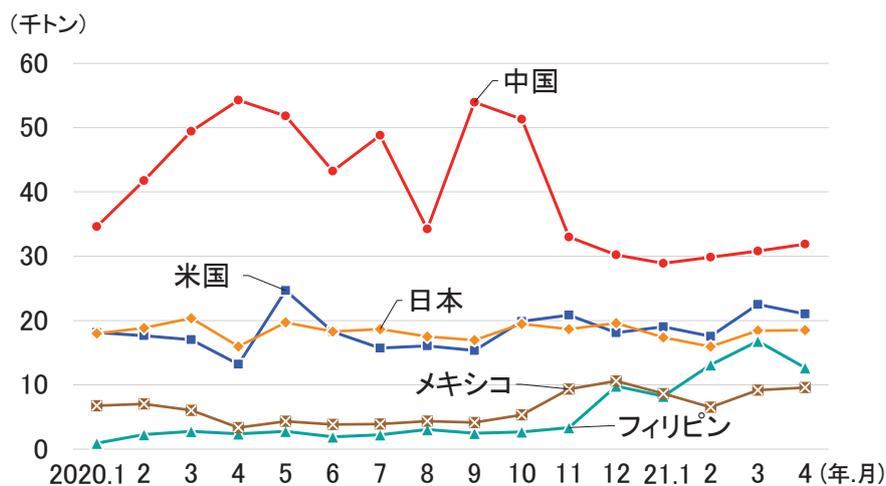
	2020年	2021年	前年同月比 (増減率)	シェア	2021年	前年同期比 (増減率)	シェア
	4月	4月			(1~4月)		
中国	54.3	31.9	▲ 41.3%	30.2%	121.4	▲ 32.6%	29.7%
米国	13.2	21.0	59.3%	19.9%	80.1	21.3%	19.6%
日本	16.0	18.5	15.9%	17.5%	70.2	▲ 4.0%	17.2%
フィリピン	2.4	12.7	431.4% (約 5.3 倍)	12.0%	50.8	509.8% (約 6.1 倍)	12.4%
メキシコ	3.3	9.6	186.3% (約 2.9 倍)	9.1%	33.9	46.3%	8.3%
韓国	2.2	3.3	53.1%	3.1%	13.1	45.7%	3.2%
ベトナム	0.4	2.6	518.5% (約 6.2 倍)	2.5%	11.6	49.3%	2.8%
台湾	1.6	1.5	▲ 8.2%	1.4%	7.6	72.6%	1.9%
コロンビア	0.1	1.0	677.6% (約 7.8 倍)	0.9%	3.7	568.8% (約 6.7 倍)	0.9%
豪州	0.2	0.5	181.3% (約 2.8 倍)	0.4%	1.6	107.2%	0.4%
その他	4.0	3.0	▲ 24.9%	2.9%	14.2	▲ 12.9%	3.5%
合計	97.7	105.5	8.0%	100.0%	408.3	4.8%	100.0%

資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

図13 主要輸出先豚肉輸出量の推移



資料：Statistics Canada

注1：HSコード0203。

注2：製品重量ベース。

(調査情報部 岡田 卓也 (現JETRO))

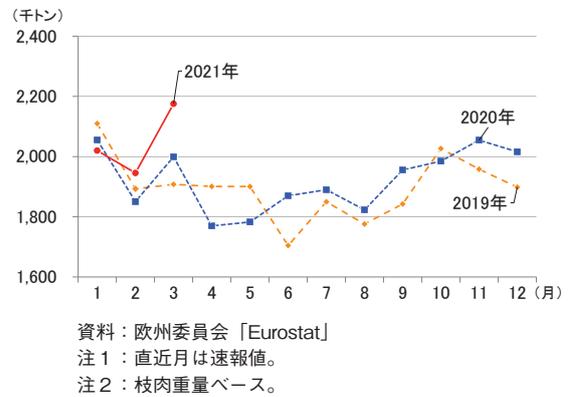
第1四半期の豚肉生産量は前年同期比4.0%増

3月の豚肉生産量は前年同月比8.8%増

欧州委員会によると、2021年3月の豚肉生産量（EU27カ国）は、前年同月比8.8%増の217万5430トンとなった（図14）。また、と畜頭数は同7.8%増の2292万頭、1頭当たり枝肉重量は同1.0%増の95.0キログラムとなった。同月の生産量を主要生産国別に見ると、前年同月をわずかに下回ったドイツ（同0.2%減）を除き、スペイン（同7.6%増）、フランス（同10.3%増）、ポーランド（同12.3%増）、デンマーク（同16.5%増）、オランダ（同16.9%増）、イタリア（同32.6%増）は前年同月を上回った（表6）。

欧州委員会によると、豚肉生産量増加の要因として1頭当たりの枝肉重量が前年を上回

図14 月別豚肉生産量の推移



る中、主要輸出国のスペイン、デンマーク、オランダなどでと畜頭数が増加したためとしている。また、イタリアの生産量増加の要因は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の拡大による昨年の豚肉生産の大幅な落ち込みの反動によるものとみられている。

表6 主要生産国別豚肉生産量の推移

(単位：千トン)

	2020年 3月	2021年 3月	前年同月比 (増減率)	2021年 (1～3月)	
				前年同期比 (増減率)	
スペイン	431	463	7.6%	1,369	3.2%
ドイツ	452	451	▲0.2%	1,302	▲2.5%
フランス	187	206	10.3%	571	1.3%
ポーランド	179	201	12.3%	529	8.0%
デンマーク	151	176	16.5%	480	16.2%
オランダ	139	162	16.9%	451	7.2%
イタリア	96	128	32.6%	351	13.0%
その他	364	388	6.5%	1,087	4.2%
合計	1,999	2,175	8.8%	6,141	4.0%

資料：欧州委員会「Eurostat」
注：枝肉重量ベース。

豚肉輸出量は前年同期を大幅に上回る

欧州委員会によると、2021年1～4月のEU域外(英国を除く)への豚肉(生鮮・冷蔵・冷凍)輸出量(EU27カ国)は、前年同期比24.3%増の210万7500トンと大幅な増加となった(表7)。

主要輸出先別に見ると、日本向けが唯一減少(同22.5%減)した中で、中国向け(同16.6%増)、フィリピン向け(同3.3倍)、香港向け(同31.4%増)、韓国向け(同2.7%増)、

ベトナム向け(同2.1倍)、米国向け(同42.6%増)が軒並み増加した。フィリピンとベトナム向けの増加は、両国でのアフリカ豚熱の発生に伴う豚肉供給不足が要因と考えられる。

なお、中国向けは、同国でのアフリカ豚熱発生以降、輸出量を増やしていたものの、中国国内の豚肉供給量の増加に伴い、5月のスペインからの輸入量が前月比31%減と大幅に落ち込むなど、増加傾向が鈍化している。

表7 輸出先別豚肉輸出量の推移(EU域外向け)

(単位：千トン)

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
中国	1,344	1,281	2,305	3,342	1,246	16.6%
フィリピン	245	276	220	153	132	232.8% (約3.3倍)
日本	445	453	454	360	105	▲22.5%
香港	357	212	203	284	91	31.4%
韓国	282	343	266	195	72	2.7%
ベトナム	41	84	94	96	57	113.6%
米国	151	159	120	104	39	42.6%
その他	916	985	907	890	365	41.5%
合計	3,781	3,793	4,570	5,424	2,108	24.3%

資料：欧州委員会「Meat Market Observatory-Pigmeat」より機構作成

注1：枝肉重量ベース。

注2：英国を除く。

豚枝肉卸売価格は、6週ぶりに前週を下回る

欧州委員会によると、2021年5月の豚枝肉卸売価格(EU27カ国)は、前年同月比2.3%安の100キログラム当たり158.7ユーロ(2万1107円：1ユーロ=133円)となり、20年5月以降、COVID-19拡大による需要低迷やドイツでの野生イノシシにおけるアフリカ豚熱の感染確認を受けて低迷しており、

13カ月連続で前年同月を下回っている。

また、同価格の動向を週ごとに見ると、2月以降は上昇基調で推移していたものの、直近の6月14日の週は6週ぶりに前週を下回る前週比1.5%安の同163.66ユーロ(2万1767円)となった(図15)。

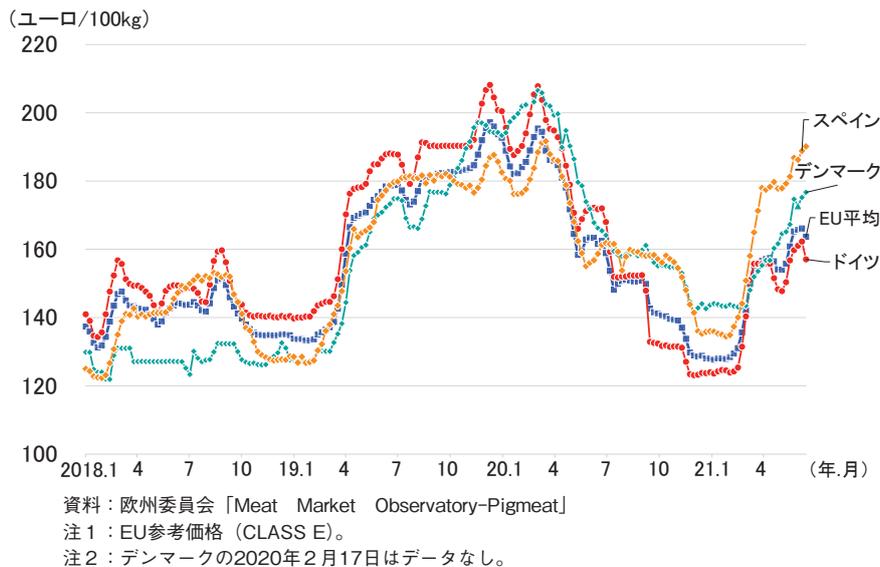
同価格が上昇基調にあったのは、EU域内で、COVID-19に伴う規制が解除され、レストランや観光などが再開していることに加え、天候に恵まれ、バーベキューなどの需要

が増えていることが挙げられる。

なお、同価格の前週比安については、現地情報によると、中国の供給回復によるとみられる豚肉国内価格の下落などに伴い、中国向け輸出量が減少し、EU域内での供給量が増

えたことが挙げられている。一方で、スペインでは観光業の再開による需要回復から、同価格は同190ユーロ（2万5270円）を上回るなど、好調な国もあることから、今後の推移が注目される。

図 15 豚枝肉卸売価格の推移



（調査情報部 小林 智也）

鶏 肉

タイ

冷凍鶏肉は日本向け輸出が大幅増、鶏肉調製品輸出は前年並み

2021年の鶏肉生産は前年比増で推移

2021年1～4月の鶏肉生産量は、前年同期比1.6%増の78万6485トンとわずかに増加した（図16）。近年におけるタイの鶏肉生産量の推移を見ると、輸出需要の高まりなどを背景に、20年1月以降、一貫して前年比増で推移している。

国内の鶏肉卸売価格は安定して推移

国内の鶏肉卸売価格は、2020年前半に新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響などにより一時的に低下したものの、その後は上昇に転じ、21年1月以降は1キログラム当たり48バーツ（168円：1バーツ＝3.5円）と、比較的高い水準ながらも安定

図 16 鶏肉生産量の推移

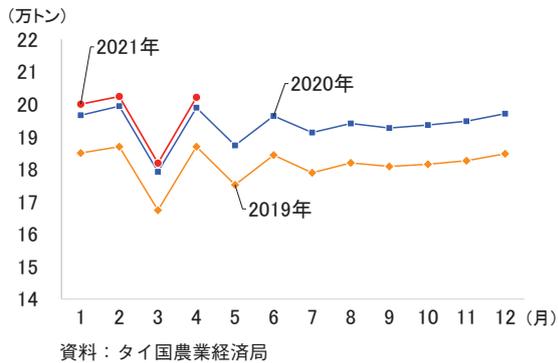
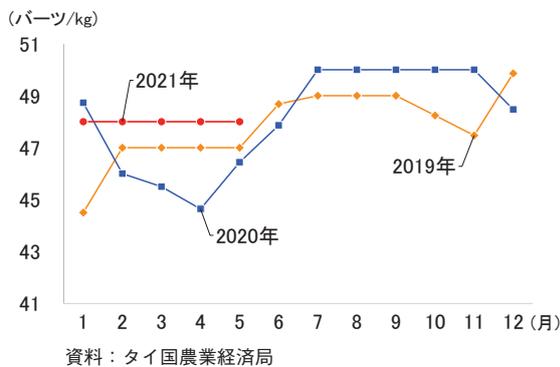


図 17 鶏肉卸売価格の推移



して推移している（図17）。タイでは、新型コロナウイルスの新規感染者数は増加しているものの、鶏肉価格への大きな影響は生じていないとみられる。一方、世界的な飼料穀物価格の高騰により生産者の経営環境は悪化しているとされる中で、現地報道によると、

COVID-19の影響により鶏肉処理・加工施設の稼働能力が低下しており、生産者の出荷計画にも影響が出ているとされ、今後の鶏肉生産への影響も懸念されている。

日本向け冷凍鶏肉輸出は大幅に増加

2021年1～4月の冷凍鶏肉の輸出量は、前年同期比14.9%増の12万6474トンとかなり大きく増加した（表8）。輸出先別に見ると、日本向けは同32.7%増の5万7708トンと大幅に増加した。これは、日本市場で競合するブラジル産鶏肉の高騰を受けて、タイ産への需要が高まったことが要因とみられている。一方、急速に輸出を伸ばしてきた中国向けは、同9.1%減の3万4816トンとかなりの程度減少した。中国では、豚肉生産の回復に伴い豚肉価格が下落する中で、代替需要として増加傾向にあった鶏肉需要も減少傾向にあるとみられる。タイ輸出鶏生産者協会によると、鶏肉処理・加工施設の労働者に新型コロナウイルスの感染者が発生している事例はあるものの、各企業が対策を講じていることから、輸出への影響はこれまでのところ限定的とされている。

表 8 輸出先別冷凍鶏肉輸出量の推移

（単位：万トン）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	前年同期比 (増減率)
					(1～4月)	
日本	12.6	13.7	12.2	12.8	5.8	32.7%
中国	—	2.1	7.6	11.5	3.5	▲ 9.1%
マレーシア	2.7	3.2	4.1	4.1	1.4	19.6%
香港	0.4	0.5	0.5	0.9	0.4	77.0%
ラオス	3.9	3.4	1.5	0.4	0.1	▲ 23.9%
その他	0.0	3.6	4.4	3.7	1.4	16.3%
合計	21.9	26.5	30.3	33.3	12.6	14.9%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは020714。

鶏肉調製品の輸出、主要輸出先は減少も全体ではおおむね前年並み

2021年1～4月の鶏肉調製品輸出量は、前年同期比0.8%増の19万1332トンとなった（表9）。輸出先別に見ると、主要輸出先である日本および英国向けがそれぞれ9万9048トン（同1.5%減）、4万7408トン（同6.4%減）と減少する中で、オランダ向けやその他の地域向けが増加したことで、全体ではおおむね前年並みとなった。COVID-19

の影響により主要輸出先での外食をはじめとした需要の落ち込みを反映した結果とみられる。なお、英国向けは、新型コロナウイルスの新規感染者数が多かった1～2月は輸出量の落ち込みが激しかったが、新規感染者数が減少した3～4月の輸出量は前年同月を上回っている。鶏肉調製品については、今後もCOVID-19の影響などにより輸出需要が左右される可能性が高く、需給状況を見通すことは困難とみられている。

表9 輸出先別鶏肉調製品輸出量の推移

（単位：万トン）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1～4月)	前年同期比 (増減率)
日本	27.4	28.1	29.5	29.2	9.9	▲1.5%
英国	13.8	15.8	16.5	14.2	4.7	▲6.4%
オランダ	3.1	3.4	3.6	2.8	1.4	20.6%
韓国	2.2	2.5	3.0	2.4	0.8	8.0%
その他	5.0	5.1	6.4	6.1	2.3	16.2%
合計	53.3	56.0	59.0	54.6	19.1	0.8%

資料：「Global Trade Atlas」
注：HSコードは160232。

（調査情報部 海老沼 一出）

牛乳・乳製品

豪州

2021/22年度の生乳生産量はわずかな増加見込み

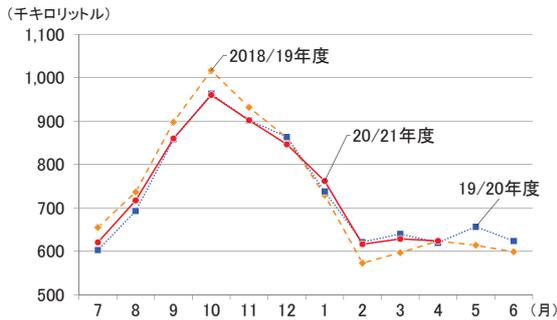
4月の生乳生産量は前年並み

デーリー・オーストラリア(DA)によると、2021年4月の生乳生産量は62万3811キロリットル（64万2525トン相当、前年同月

比0.0%増）と前年並みとなった（図18）。

これを州別に見ると、酪農主産地であるビクトリア州は37万4130キロリットル（38万5354トン相当、前年同月比0.3%減）、タスマニア州は7万6661キロリットル（7万

図 18 生乳生産量の推移



資料：DA
注：年度は7月～翌6月。

8961トン相当、同2.7%減)といずれも減少したが、ニューサウスウェールズ州は8万666キロリットル(8万3085トン相当、同2.7%増)と増加した(表10)。

また、2020/21年度(7月～翌6月)の4月までの累計では、756万1336キロリットル(778万8177トン相当、前年同期比0.6%増)とわずかに増加している。

表 10 州別の生乳生産量の推移

(単位：千キロリットル)

州名	2020年 4月	2021年 4月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌4月)	
				2020/21年度 (7月～翌4月)	前年同期比 (増減率)
ビクトリア州	375.3	374.1	▲0.3%	4,820.6	0.3%
ニューサウスウェールズ州	78.5	80.7	2.7%	905.1	2.1%
タスマニア州	78.8	76.7	▲2.7%	849.0	1.3%
南オーストラリア州	39.8	40.6	2.0%	424.2	2.5%
西オーストラリア州	28.7	28.3	▲1.3%	301.8	▲0.9%
クイーンズランド州	22.4	23.4	4.3%	260.7	▲2.7%
合計	623.6	623.8	0.0%	7,561.3	0.6%

資料：DA

2021/22年度(7月～翌6月)の生乳生産量についてDAは、依然として労働力不足などの懸念はあるものの、かんがい用水や飼料などの生産コストが昨年度よりも低下していることや、当初乳価(年度当初に乳業各社などが設定する最低生産者支払乳価(生産者への支払乳価の最低価格))が昨年度より高い水準にある(注1)ことなどから、前年度比で0～2%増加すると見込んでいる(注2)。

(注1) 海外情報「2021/22年度の当初乳価は7ドル前後で幕開け(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002989.html)を参照されたい。

(注2) 海外情報「2021/22年度の生乳生産見通し、収益は改善も生産は伸び悩み(豪州)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002999.html)を参照されたい。

主要乳製品4品目すべての輸出量が大幅に増加

DAが発表した2021年4月の主要乳製品4品目の輸出量は、中国をはじめとしたアジア向け輸出の伸びなどを反映し、すべての品目で前年同月を大きく上回った(表11、図19)。

同月の輸出を品目別に見ると、脱脂粉乳は1万5945トン(前年同月比48.5%増)、今期(2020/21年度)の4月までの累計は10万7615トン(同22.5%増)といずれも大幅に増加した。バターおよびバターオイルも同様に2430トン(同280.0%増)、年度累計は2万193トン(同114.1%増)といずれも

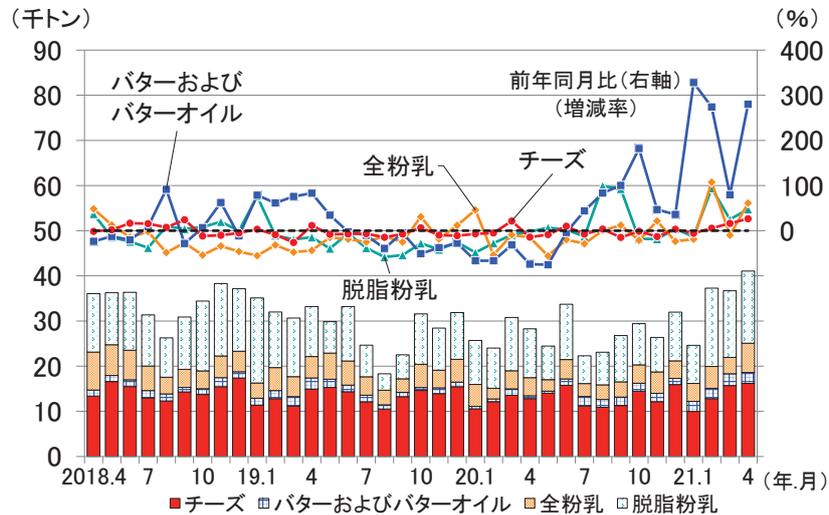
表 11 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2020年 4月	2021年 4月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度	前年同期比 (増減率)
				(7月～翌4月)	
脱脂粉乳	10,738	15,945	48.5%	107,615	22.5%
全粉乳	4,095	6,490	58.5%	41,162	4.0%
バターおよびバターオイル	640	2,430	280.0% (約3.8倍)	20,193	114.1% (約2.1倍)
チーズ	12,487	16,189	29.6%	130,616	2.0%

資料：DA
注：製品重量ベース。

図 19 乳製品輸出量および増減率の推移



資料：DA
注：製品重量ベース。

大幅に増加した。また、全粉乳は6490トン（同58.5%増）と大幅に増加し、年度累計では4万1162トン（同4.0%増）とやや増加した。チーズは1万6189トン（同29.6%増）と大幅に増加し、年度累計は13万616トン（同2.0%増）とわずかに増加した。

英国とのFTA合意を歓迎も輸出増は不透明

豪州連邦政府は2021年6月15日、英国との自由貿易協定（FTA）に合意したと発表した^(注3)。これについてDAは、英国がEUに加盟する前は、豪州乳業界にとって英国は

最大の輸出市場であったとした上で、現在では英国の輸入乳製品のうち99%以上がEUから輸入されており、今回の合意により豪州からの乳製品輸出が、以前の水準にまで回復することは期待していないとしながらも、北半球との季節差を活用した、価値の高いニッチな輸出機会となり得ると、期待感も併せて表明している。

(注3) 海外情報「豪英FTAが合意(その2: 豪州側の反応)」(https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002971.html)を参照されたい。

(調査情報部 阿南 小有里)

5月の生乳生産量、輸出量ともに前年同月を上回る

2020/21年度の生乳生産量、前年度よりわずかに増加

ニュージーランド乳業協会（DCANZ）によると、2021年5月の生乳生産量は97万4000トン（前年同月比7.6%増）と前年同月をかなりの程度上回り、2020/21年度（6月～翌5月）の累計も2233万9000トン（前年度比2.6%増）と前年度をわずかに上回った^{（注1）}（図20）。

2021/22年度の状況について現地報道によると、6月時点の牧草の生育状態が全国的に例年の平均レベルを下回っていることや、日照時間も平均を少し下回っていることなどから、今後の放牧環境や飼料作物への影響が懸念されている。一方で、高い乳価水準を背景に酪農家が補助飼料の購入など増産意欲を高めていることで、生乳生産量は引き続き前年を上回って推移すると見込まれている。

（注1） 海外情報「2020/21年度の生乳生産、過去最高を更新（NZ）」（https://www.alic.go.jp/chosa-cu/joho01b_000048.html）を参照されたい。

図20 生乳生産量の推移



5月の中国向け輸出量が大幅に増加

ニュージーランド統計局（Statistics NZ）によると、2021年5月の主要乳製品4品目（全粉乳、脱脂粉乳、バターおよびバターオイル、チーズ）の輸出量は、バターおよびバターオイル以外の品目で前年同月を大幅に上回った（表12、図21）。これは、最大の輸出先国である中国向けが伸びる中で、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で大幅に落ち込んだ前年同月の反動によるものとみられている。中国では、新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い経済活動が急速に回復する中で乳製品の輸入需要も高まっている。

同月の輸出量を品目別に見ると、脱脂粉乳は3万3648トン（前年同月比5.4%増）と6カ月ぶりに増加に転じ、特に主要輸出先である中国向けが1万3522トン（同63.7%増）と大幅に増加した。また、日本向けも389トン（同約2倍）と大幅に増加した。全粉乳は13万1753トン（同21.9%増）と前年同月を大幅に上回った。中国向けは6万7896トン（同97.6%増）と前年同月より約2倍に増えたほか、日本向けも77トン（同52.4%）と大幅に増加した。一方、バターおよびバターオイルは3万2498トン（同8.7%減）とかなりの程度下回った。中国向けが8500トン（同53.4%増）と大幅に増加したものの、米国向けが657トン（同56.1%減）と大幅に減少したことなど他国での減少が影響したとみられる。チーズは3万5009トン（同27.5%増）と7カ月連続で

前年同月を上回った。主要輸出先国である日本や韓国向けは前年同月を下回ったものの、
 外食産業の回復などから中国向けが8812ト

ン（同60.8%増）と大幅に増加したことがけん引した。

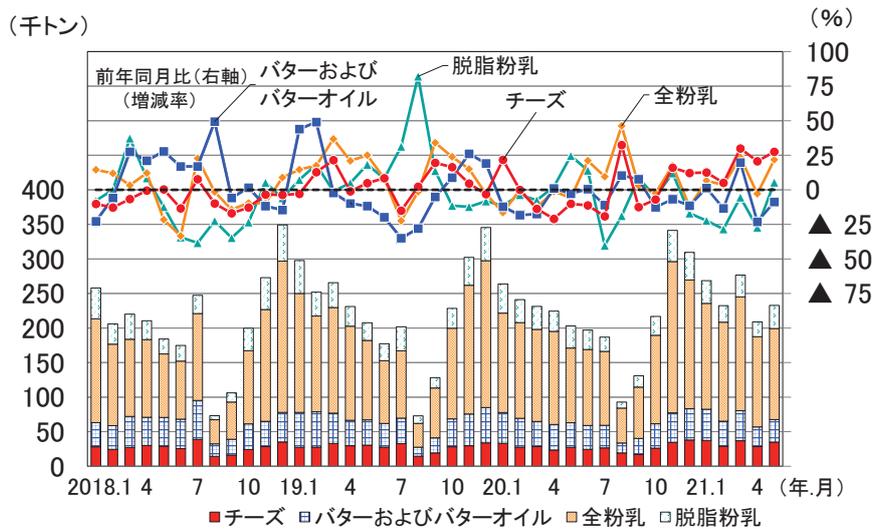
表 12 乳製品輸出量の推移

(単位：トン)

品目	2020年 5月	2021年 5月	前年同月比 (増減率)	2020/21年度 (7月～翌5月)	
				2020/21年度 (7月～翌5月)	前年同期比 (増減率)
脱脂粉乳	31,919	33,648	5.4%	301,311	▲ 13.4%
全粉乳	108,124	131,753	21.9%	1,488,473	6.9%
バターおよび バターオイル	35,604	32,498	▲ 8.7%	379,400	▲ 6.1%
チーズ	27,451	35,009	27.5%	328,919	9.8%

資料：Statistics NZ
 注1：製品重量ベース。
 注2：年度は7月～翌6月。

図 21 乳製品輸出量および前年同月比(増減率)の推移



資料：Statistics NZ
 注：製品重量ベース。

GDT、全粉乳が4000米ドル台割れ

2021年6月15日に開催されたグローバルデーリートレード（GDT：乳製品の国際価格の指標の一つであるフォンテラ社主催の電子オークション。月2回開催）の1トン当たり平均取引価格は、全体としては過去3カ月間の取引と同じく小幅な動きを踏襲した

が、現地報道によると、脱脂粉乳と全粉乳の下落幅は市場関係者の事前予想を上回ったとされている（表13、図22）。

脱脂粉乳については、北アジアを除いて全地域で応札量が減少したことを受け、前回比1.7%安の1トン当たり3356米ドル（37万6000円）となった。全粉乳は北アジア^(注2)からの需要が再び高まっているものの、同

3997米ドル（44万8000円、同1.6%安）と約3カ月ぶりに4000米ドル台を下回った。バターも北アジアを中心に一定の応札量があったものの、同1.7%安の同4612米ドル（51万7000円）となった。チーズは東南アジアとオセアニアの応札増がけん引した結果、同0.1%高の同4328米ドル（48万5000円）となった。

現地報道によると、全粉乳の平均取引価格が4000米ドル台を下回ったことについて、相対的には引き続き高水準ではあるものの、今後もこの下落傾向が続けば北アジア以外の需要も高まる可能性があると考えられている。

（注2） ニュージーランド外務貿易省は、中国、日本、香港、韓国、台湾を北アジアとしている。

表 13 GDT乳製品取引価格（2021年6月15日開催）

（単位：米ドル/トン、万円/トン）

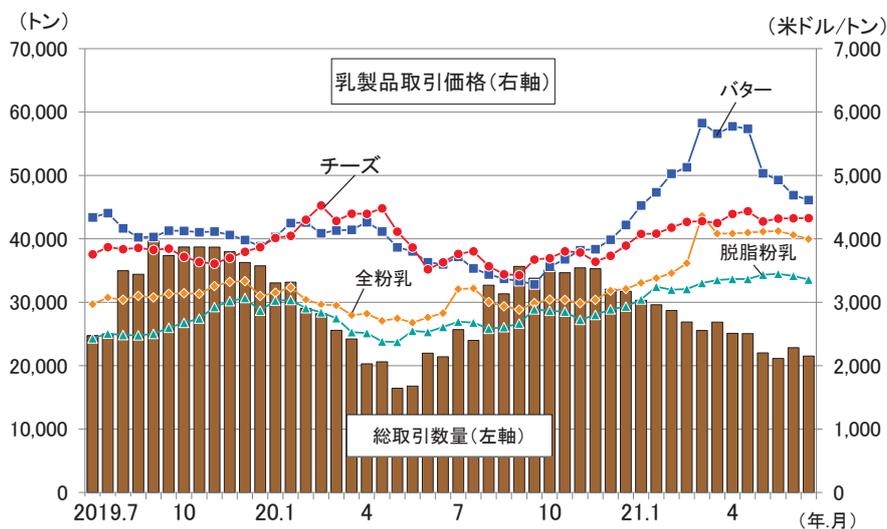
品目	価格		前年比 (騰落率)	前回比 (騰落率)
	米ドル	万円		
脱脂粉乳	3,356	37.6	28.6%	▲1.7%
全粉乳	3,997	44.8	41.3%	▲1.6%
バター	4,612	51.7	28.2%	▲1.7%
チーズ	4,328	48.5	19.2%	0.1%

資料：GDT

注1：1米ドル=112円として計算。

注2：前回は6月1日に開催。

図 22 GDTの乳製品取引価格と総取引数量の推移



資料：GDT

（調査情報部 廣田 李花子）

中国

生乳生産量は増加基調ながらも生乳価格は高値を維持

2021年1～3月の生乳生産量は増加

中国では、乳製品に含まれる良質なたんぱく質や免疫増強効果への期待感から乳製品の積極的な消費が習慣化しつつある中、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大が契機となり、特に牛乳やヨーグルトなどの需要が伸びているとされている。こうした状況を背景に、生乳や乳製品の増産機運が一段と高まっており、中国国家统计局によると、2021年1～3月の生乳生産量は前年同期比8.5%増（56万トン増）の709万トンとなった。

中国農業農村部が6月に公表した「中国農業展望報告（2021-2030）」によると、2021年の生乳生産量は各地で酪農場の建設が推進されていることから前年比1.3%増の3591万トンと予測されている^{（注）}。

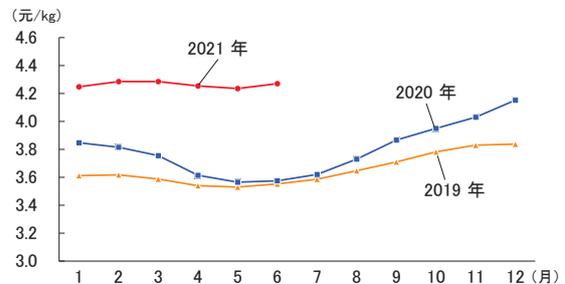
（注） 海外情報「中国農業展望報告（2021-2030）を公表（乳製品編）」（https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_002994.html）を参照された。

堅調な需要を背景に生乳価格は高値を維持

生乳生産が増加する中で乳製品の需要も引き続き堅調なことから、同年6月の生乳価格は1キログラム当たり4.3元（75円：1元＝17.5円）と高値を維持している（図23）。

「中国農業展望報告（2021-2030）」によると、乳製品需要が好調な中で飼料価格の高騰などによる生産コストの上昇を反映し、同年の生乳価格は上昇傾向を維持すると予測されている。

図 23 生乳価格の推移



資料：中国農業農村部

注：主要10省・自治区（全国の生乳生産量の8割以上を占める）の農家庭先価格の平均。

乳製品輸入量は引き続き増加の予測

2021年1～5月の乳製品輸入量は、国内の生乳生産では旺盛な需要を満たすことが困難なことから引き続き増加傾向にあるが、品目別に見ると、ヨーグルトと育児用調製粉乳（以下「育粉」という）は、前年同期に比べて減少した（表14）。ヨーグルトについては、国内の需要が高い中で乳業各社が生産能力を高めているとされることから、20年以降の輸入量は減少傾向にある。また、育粉については、主要輸入先であるEUでのCOVID-19の拡大や輸入食品の包装から新型コロナウイルスが検出されたことを契機に、小児用食品を中心に国産志向が高まっていた流れを受け、輸入量が減少したとみられる。

一方、飲用乳の輸入は引き続き増加傾向にある。現地専門家によると、輸入飲用乳（主に、1リットルパックの常温保存可能な製品）に対し、多くの消費者が品質と栄養価が高く、価格もリーズナブルだというイメージを持っており、これが輸入増を後押ししているとされる。また、購買方法については、近年中国

で活発に利用されているインターネットを通じた売買が大きな役割を果たしていると考えられている。

なお、「中国農業展望報告（2021-2030）」によると、国内の生乳生産は増加傾向にある

ものの、引き続き需給はひっ迫基調であることから、21年の輸入量は前年比3.5%増の1886万トン（生乳換算ベース）とやや増加することが予測されている。

表 14 主な乳製品の品目別輸入数量の推移

（単位：万トン）

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年 (1~5月)	前年同期比 (増減率)
全粉乳	47.0	52.1	67.1	64.4	46.7	23.2%
脱脂粉乳	24.7	28.0	34.4	33.6	19.7	47.1%
飲用乳	52.9	54.4	72.9	84.5	43.3	57.2%
ヨーグルト	2.8	2.7	3.2	2.8	0.8	▲ 32.1%
チーズ	10.8	10.8	11.5	12.9	8.3	66.2%
バター	6.6	8.7	6.2	8.6	5.2	15.1%
育児用調製粉乳	30.3	33.3	35.6	34.8	11.0	▲ 23.2%
ホエイ	52.7	55.5	45.1	62.3	34.1	56.4%

資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコードは、全粉乳が0402.21と0402.29、脱脂粉乳が0402.10、飲用乳が0401.10と0401.20、ヨーグルトが0403.10、チーズが0406、バターが0405.10、育児用調整粉乳が1901.10、ホエイが0404.10。

（調査情報部 阿南 小有里）

飼料穀物

世界

2021/22年度の世界のトウモロコシ生産量、前年度からやや増加する見込み

米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）および米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年6月10日、2021/22年度の世界のトウモロコシ需給予測値を更新した（表15）。

これによると、世界のトウモロコシ生産量は前回と変わらず、11億8985万トン（前年度比5.8%増）と予測された。国別に見るとブラジル（同19.8%増）およびウクライナ（同23.8%増）では記録的な生産増が予測され、米国（同5.7%増）、アルゼンチン（同8.5%増）および中国（同2.8%増）でも過去最高水準に近い生産が見込まれている。

輸出量も前回と変わらず、1億9747万トン（同5.6%増）と予測された。国別に見るとブラジル（同30.3%増）とウクライナ（同

32.6%増）で大幅な増加が見込まれるものの、米国（同14.0%減）はこれら輸出国との競合により減少が見込まれている。

輸入量も前回と変わらず、1億8951万トン（同3.0%増）と予測された。国別に見ると、主要輸入国である中国の輸入量は2600万トンと前年度から変わらないものの、引き続き高水準での推移が見込まれている。

消費量は4万トン下方修正されて、11億8104万トン（同2.7%増）と予測されたものの、消費大国であるブラジル（同5.8%増）、米国（同1.2%増）および中国（同1.7%増）などで増加が見込まれている。

期末在庫は、2020/21年度の期末在庫の下方修正に伴い、前月から1.0%減の2億8941万トン（同3.1%増）と見込まれている。

表 15 主要国のトウモロコシの需給見通し(2021年6月10日米国農務省公表)

(単位:百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(5月予測)	(6月予測)	前年度比 (増減率)
米国					
期首在庫	56.41	48.76	31.93	28.12	▲42.3%
生産量	345.96	360.25	380.76	380.76	5.7%
輸入量	1.06	0.64	0.64	0.64	0.0%
消費量	309.51	309.13	312.82	312.82	1.2%
輸出量	45.17	72.39	62.23	62.23	▲14.0%
期末在庫	48.76	28.12	38.28	34.47	22.6%
アルゼンチン					
期首在庫	2.37	3.62	2.12	2.12	▲41.4%
生産量	51.00	47.00	51.00	51.00	8.5%
輸入量	0.00	0.01	0.01	0.01	0.0%
消費量	13.50	14.50	14.50	14.50	0.0%
輸出量	36.25	34.00	36.00	36.00	5.9%
期末在庫	3.62	2.12	2.63	2.63	24.1%
ブラジル					
期首在庫	5.31	5.23	5.23	5.23	0.0%
生産量	102.00	98.50	118.00	118.00	19.8%
輸入量	1.65	3.50	1.70	1.70	▲51.4%
消費量	68.50	69.00	73.00	73.00	5.8%
輸出量	35.23	33.00	43.00	43.00	30.3%
期末在庫	5.23	5.23	8.93	8.93	70.7%
ウクライナ					
期首在庫	0.89	1.48	0.89	0.89	▲39.9%
生産量	35.89	30.30	37.50	37.50	23.8%
輸入量	0.03	0.02	0.02	0.02	0.0%
消費量	6.40	7.90	6.80	6.80	▲13.9%
輸出量	28.93	23.00	30.50	30.50	32.6%
期末在庫	1.48	0.89	1.11	1.11	24.7%
中国					
期首在庫	210.16	200.53	198.18	198.18	▲1.2%
生産量	260.78	260.67	268.00	268.00	2.8%
輸入量	7.60	26.00	26.00	26.00	0.0%
消費量	278.00	289.00	294.00	294.00	1.7%
輸出量	0.01	0.02	0.02	0.02	0.0%
期末在庫	200.53	198.18	198.16	198.16	▲0.0%
世界計					
期首在庫	322.56	305.45	283.53	280.60	▲8.1%
生産量	1,117.50	1,125.03	1,189.85	1,189.85	5.8%
輸入量	167.59	184.01	189.51	189.51	3.0%
消費量	1,134.61	1,149.88	1,181.08	1,181.04	2.7%
輸出量	172.46	187.04	197.47	197.47	5.6%
期末在庫	305.45	280.60	292.30	289.41	3.1%

資料: USDA

注: 各国の穀物年度 世界、米国: 9月~翌8月/中国、ウクライナ: 10月~翌9月/アルゼンチン、ブラジル: 3月~翌2月。

(調査情報部 荒川 侑子)

2021/22年度世界の大豆期末在庫量、前年度比5.2%増を予測

米国農務省海外農業局（USDA/FAS）は2021年6月10日、「Oilseeds:World Markets and Trade」で2021/22年度の世界の大豆需給予測値を、また、米国農務省世界農業観測ボード（USDA/WAOB）は同日、2021/22年度（9月～翌8月）の世界の主要農作物需給予測値をそれぞれ更新した。

これによると、2021/22年度の世界の大豆生産量は、前回から大きな修正はなく前年度比5.9%増の3億8552万トンと2年連続で増加し記録的な水準になると見込まれている（表16）。最大の生産国であるブラジルは、輸出需要が堅調であることなど生産者による増益の期待感から前年度に続き作付面積が拡大し、生産量は過去最大となる同5.1%増の1億4400万トンと見込まれている。なお、収穫がほぼ終了した2020/21年度分については、単収が増加したことから前回より100万トン上方修正された。ブラジルに次ぐ生産量の米国は、同6.5%増の1億1988万トンと前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。また、アルゼンチンは、同10.6%増の5200万トンと前年度をかなりの程度上回ると見込まれている。

輸出量は、前回と変わらず同0.9%増の1億7290万トンと前年度をわずかに上回ると

見込まれている。最大の輸出国であるブラジルは、生産量の増加を背景に同8.1%増の9300万トンと見込まれている。一方、米国は、前年度からの繰越在庫量が少ないことや国内需要が強いことから同9.0%減の5647万トンと前年度をかなりの程度下回ると見込まれている。輸入量は、最大の輸入国である中国が、アフリカ豚熱からの豚飼養頭数の回復により同3.0%増の1億300万トンと2020/21年度に続き増加すると見込まれている。

消費量（搾油仕向け）は、前回と変わらず同3.0%増の3億3169万トンと見込まれている。最大の消費国である中国は、アフリカ豚熱からの豚飼養頭数の回復により同4.2%増の1億トンとやや増加すると見込まれている。なお、米国は、2020/21年度分において消費量が41万トン下方修正された。

期末在庫量は、前回より145万トン上方修正され、同5.2%増の9255万トンとなり、2015/16年度以来の低水準となった前年度よりやや回復すると見込まれている。なお、ブラジルは、2020/21年度の実産量が増加したことから100万トン上方修正された。また、米国は、2020/21年度の実消費量が減少したことから、41万トン下方修正された。

表 16 主要国の大豆需給見通し (2021年6月10日米国農務省公表)

(単位：百万トン)

国名	2019/20年度	2020/21年度 (推計値)	2021/22年度		
			(5月予測)	(6月予測)	前年度比 (増減率)
米 国					
生産量	96.67	112.55	119.88	119.88	6.5%
輸入量	0.42	0.95	0.95	0.95	0.0%
消費量	58.91	59.19	60.56	60.56	2.3%
輸出量	45.78	62.05	56.47	56.47	▲ 9.0%
期末在庫	14.28	3.66	3.81	4.22	15.2%
ブラジル					
生産量	128.50	137.00	144.00	144.00	5.1%
輸入量	0.55	0.70	0.65	0.65	▲ 7.1%
消費量	46.00	46.75	47.70	47.70	2.0%
輸出量	92.14	86.00	93.00	93.00	8.1%
期末在庫	20.74	23.04	23.34	24.34	5.6%
アルゼンチン					
生産量	48.80	47.00	52.00	52.00	10.6%
輸入量	4.88	4.70	4.70	4.70	0.0%
消費量	38.77	41.50	42.50	42.50	2.4%
輸出量	10.00	6.35	6.35	6.35	0.0%
期末在庫	26.70	23.35	23.85	23.85	2.1%
中 国					
生産量	18.10	19.60	19.00	19.00	▲ 3.1%
輸入量	98.53	100.00	103.00	103.00	3.0%
消費量	91.50	96.00	100.00	100.00	4.2%
輸出量	0.09	0.10	0.10	0.10	0.0%
期末在庫	26.80	31.80	34.00	34.00	6.9%
世界計					
生産量	339.42	364.07	385.53	385.52	5.9%
輸入量	165.02	167.81	172.71	172.71	2.9%
消費量	311.50	322.06	331.69	331.69	3.0%
輸出量	165.14	171.41	172.90	172.90	0.9%
期末在庫	96.52	88.00	91.10	92.55	5.2%

資料：USDA

注1：各国の穀物年度 米国：9月～翌8月/ブラジル、アルゼンチン、中国：10月～翌9月。

注2：消費量は搾油仕向量である。

(調査情報部 井田 俊二)

米 国

2021/22年度の米国トウモロコシ期末在庫率、9%台の見込み

USDA/WAOBは2021年6月10日、2021/22年度（9月～翌8月）の米国の主要農作物需給予測値を更新した。このうち、同国のトウモロコシ需給見通しは次の通りである（表17）。

生産量は前回と変わらず、149億9000万ブッシェル（3億8076万トン^{（注）}、前年度比5.7%増）と予測されており、これまでの統計で最も生産量の多かった2016/17年度の151億4800万ブッシェル（3億8477万トン）をわずかに下回る過去2番目の水準となっている。

消費量も前回と変わらず、123億1500万ブッシェル（3億1281万トン、同1.2%増）と予測された。

輸出量も前回と変わらず、ロシア産やウクライナ産との競合によって米国产のシェアが縮小し、24億5000万ブッシェル（6223万トン、同14.0%減）と記録的な輸出量となった前年

度からかなり大きく減少すると予測された。

期末在庫は、2020/21年度の国内消費量のうちエタノール向け（新型コロナウイルス感染症〈COVID-19〉の拡大前の水準まで需要が回復）と輸出量が上方修正されたことに伴い、2021/22年度の期首在庫が下方修正されたため、前月から10.0%減の13億5700万ブッシェル（3447万トン、同22.6%増）と予測された。その結果、期末在庫率（総消費量に対する期末在庫量）は前月から1.0ポイント減の9.2%（同1.8ポイント増）となった。

また、生産者平均販売価格は前回と変わらず、1ブッシェル当たり5.70米ドル（638円）。1キログラム当たり25.1円：1米ドル＝112円と予測された。

（注） 1ブッシェルを約25.401キログラムとして農畜産業振興機構が換算。

表 17 米国のトウモロコシの需給見通し（2021年6月10日米国農務省公表）

区分	－単位－	2019/20 年度	2020/21 年度 (推計値)	2021/22 年度			前年度比 (増減率)
				(5月予測)	(6月予測)	参考(換算値)	
作付面積	(百万エーカー)	89.7	90.8	91.1	91.1	36.9 (百万ヘクタール)	0.3%
収穫面積	(百万エーカー)	81.3	82.5	83.5	83.5	33.8 (百万ヘクタール)	1.2%
単収	(ブッシェル/エーカー)	167.5	172.0	179.5	179.5	11.3 (トン/ヘクタール)	4.4%
生産量	(百万ブッシェル)	13,620	14,182	14,990	14,990	380.76 (百万トン)	5.7%
輸入量	(百万ブッシェル)	42	25	25	25	0.64 (百万トン)	－
期首在庫	(百万ブッシェル)	2,221	1,919	1,257	1,107	28.12 (百万トン)	▲ 42.3%
総供給量	(百万ブッシェル)	15,883	16,127	16,272	16,122	409.51 (百万トン)	▲ 0.0%
国内消費量	(百万ブッシェル)	12,185	12,170	12,315	12,315	312.81 (百万トン)	1.2%
飼料など向け	(百万ブッシェル)	5,897	5,700	5,700	5,700	144.79 (百万トン)	－
食品・種子・その他工業向け	(百万ブッシェル)	6,287	6,470	6,615	6,615	168.03 (百万トン)	2.2%
うちエタノール向け	(百万ブッシェル)	4,857	5,050	5,200	5,200	132.09 (百万トン)	3.0%
輸出量	(百万ブッシェル)	1,778	2,850	2,450	2,450	62.23 (百万トン)	▲ 14.0%
総消費量	(百万ブッシェル)	13,963	15,020	14,765	14,765	375.05 (百万トン)	▲ 1.7%
期末在庫	(百万ブッシェル)	1,919	1,107	1,507	1,357	34.47 (百万トン)	22.6%
期末在庫率	(%)	13.7	7.4	10.2	9.2		1.8ポイント増
生産者平均販売価格	(米ドル/ブッシェル)	3.56	4.35	5.70	5.70	24.9 (円/kg)	31.0%

資料：USDA/WAOB「World Agricultural Supply and Demand Estimates」

注1：年度は各年9月～翌8月。

注2：1エーカーは約0.4047ヘクタール。

(調査情報部 荒川 侑子)

ブラジル

2020/21年度トウモロコシ生産量、天候などの影響で一転して前年度を下回る見込み

ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）は6月10日、2020/21年度第9回目となる主要穀物の生産状況等調査結果を公表した（表18、図24、25）。この調査は、春まきの夏作物（大豆、第1期作トウモロコシなど）や秋まきの冬作物（第2期作・第3期作トウモロコシ、小麦、大麦、ライ麦など）の生産予測値を毎月公表するものである。

トウモロコシ生産量は第2期作を中心に下方修正され、前年度比6.0%減の見込み

2020/21年度（第1～第3期作）のトウモロコシ生産量は、第2、第3期作で減少し前回より1002万1400トン下方修正され、前年度比6.0%減の9639万2100トンと、前月までの増産予測から一転して前年度をかなり下回ると見込まれている。国内外の需要が強く堅調な市場価格を背景として作付面積が同7.1%増と前年度をかなり上回るものの、降水量不足などの影響で単収が同12.3%減とかなり大きく減少することが見込まれるためである。

生産量全体の約4分の1を占める第1期作は、北東部などの一部を除き主産地での収穫がほぼ終了し、今回わずかに上方修正され、同3.8%減の2471万7600トンと前年度をやや下回ると見込まれている。これは、作付面積が同3.0%増となったものの、播種時の降水量不足や不規則な降雨による播種の遅れ、その後の不規則な天候が生育状況に影響を及ぼした結果、単収が同6.6%減となったためである。また、全体の約4分の3を占め

る第2期作は、984万2400トン減（前回比12.3%減）とかなり大きく下方修正された。生産量は前回に続き下方修正された結果、同6.8%減の6995万7000トンと前月までの増産予測から一転して前年度を下回ると見込まれている。播種作業は、天候の影響で作業が大幅に遅れたため、多くの農地で播種適期より遅れて行われた。さらに播種後の3～5月は、中西部や南部の主産地において極度の降水量不足となったことが今回の大きな下方修正につながったとみられる。主産地の一つである南部のパラナ州では、3～4月にほとんどの地域で降雨がなく、すべての生産地域で生育状況が悪化し単収が減少すると見込まれている。さらに同州の一部では、低温による凍結や害虫の影響も報告されている。また、生産量全体の2%程度を占め4月から播種が行われている第3期作についても、天候の影響により22万トン（前回比11.4%減）とかなりの程度下方修正され、生産量は同6.9%減の171万7300トンと見込まれている。

大豆生産量、前年度比8.8%増と過去最大を更新する見込み

2020/21年度の大豆生産量は45万2200トン上方修正され、前年度比8.8%増の1億3586万1000トンと前年度の記録を更新し過去最大になると見込まれている。作付面積（同4.2%増）、単収（同4.4%増）のいずれも前年度の実績を上回った。

2020/21年度は、主産地において9～10月の降水量不足による播種的大幅な遅れや、その後の日照不足による生育の遅れ、さらに

収穫期の降雨により収穫が大幅に遅れた。主産地での収穫作業は、南部のリオグランデス州が5月に終了し、その他北部および北東部の一部地域で収穫が行われている。地域別に見ると、最大の生産地である中西部では、作付面積は増えたものの天候の影響で単収が前年度を下回ったことから、同1.0%増の6132万1700トンとわずかに増加すると見

込まれている。一方、中西部に次ぐ南部では、天候の影響で前年度より生産量が同8.0%減となるパラナ州を除き各州とも生産量が前年度を上回り、同21.9%増の4303万1500トンと過去最大になると見込まれている。

(注) 今回の発表では、2020/21年度のブラジルの大豆需給動向に関するデータは掲載されていない。

表 18 2020/21年度の主要穀物の生産予測

	作付面積 (千 ha)				単収 (トン/ha)				生産量 (千トン)			
	2019/20	2020/21			2019/20	2020/21			2019/20	2020/21		
		(5月予測)	(6月予測)	前年度比(増減率)		(5月予測)	(6月予測)	前年度比(増減率)		(5月予測)	(6月予測)	前年度比(増減率)
穀物合計	65,926.3	68,620.4	68,693.1	4.2%	3.9	4.0	3.8	▲ 2.1%	257,016.7	271,696.9	262,130.1	2.0%
トウモロコシ	18,527.3	19,873.4	19,840.7	7.1%	5.5	5.4	4.9	▲ 12.3%	102,586.4	106,413.5	96,392.1	▲ 6.0%
第1期作	4,235.8	4,337.6	4,364.6	3.0%	6.1	5.7	5.7	▲ 6.6%	25,689.6	24,676.8	24,717.6	▲ 3.8%
第2期作	13,755.9	14,968.8	14,905.8	8.4%	5.5	5.3	4.7	▲ 14.0%	75,053.2	79,799.4	69,957.0	▲ 6.8%
第3期作	535.6	567.0	570.3	6.5%	3.3	3.4	3.0	▲ 8.9%	1,843.6	1,937.3	1,717.3	▲ 6.9%
大豆	36,949.7	38,502.1	38,508.7	4.2%	3.4	3.5	3.5	4.4%	124,844.8	135,408.8	135,861.0	8.8%

資料：ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）

注1：2021年6月10日公表データ。

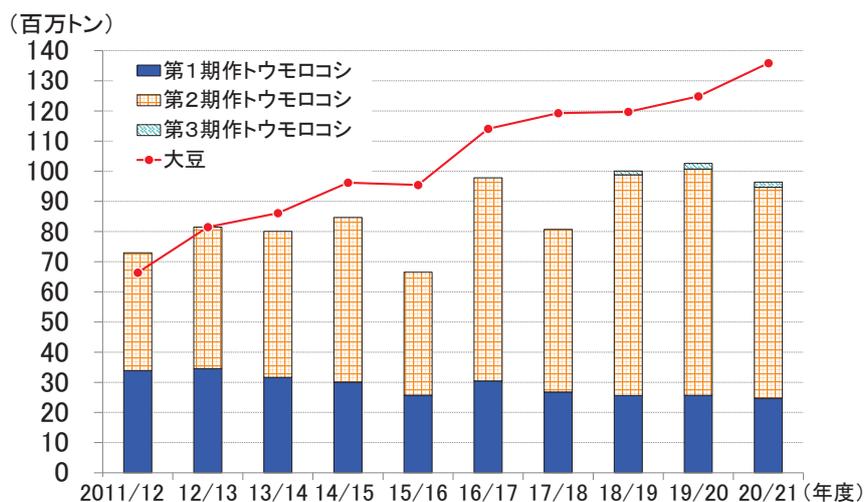
注2：第1作トウモロコシは、例年、9月ごろから南部より順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

注3：第2作トウモロコシは、主に中西部と南部パラナ州で1～3月にかけて播種が行われ、6～9月に収穫される。

注4：第3作トウモロコシは、主に北部と北東部で5～6月にかけて播種が行われ、10～11月ごろに収穫される。

注5：大豆は、10月ごろから順次播種され、翌5月ごろまでに収穫をほぼ終える。

図 24 トウモロコシと大豆の生産量の推移

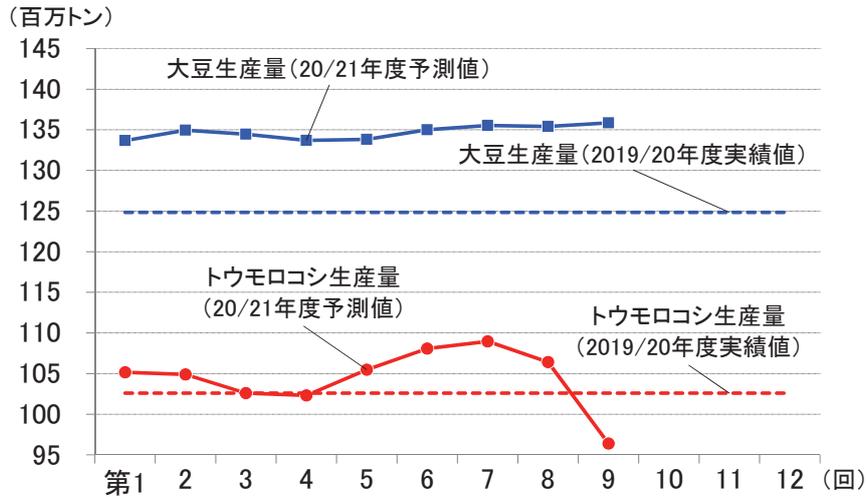


資料：CONAB

注1：2021年6月10日公表データ。

注2：2020/21年度は予測値。

図 25 2020/21年度の生産予測値の推移



資料：CONAB

注：生産予測値の第1回は10月公表、以降毎月更新。

(参考) ブラジルのトウモロコシ需給動向

(単位：千トン)

年度	2017/18	2018/19	2019/20	2020/21		
				(5月予測)	(6月予測)	増減率(%)
期首在庫量	15,876.2	14,582.1	10,189.4	10,602.4	10,602.4	4.1
生産量	80,709.5	100,042.7	102,515.0	106,413.5	96,392.1	▲6.0
輸入量	900.7	1,596.4	1,453.4	1,000.0	2,300.0	58.2
供給量	99,203.1	116,221.2	114,157.8	118,015.9	109,294.5	▲4.3
消費量	59,162.0	64,957.8	68,662.5	72,149.9	72,149.9	5.1
輸出量	23,742.2	41,074.0	34,892.9	35,000.0	29,500.0	▲15.5
期末在庫量	14,582.1	10,189.4	10,602.4	10,866.0	7,644.6	▲27.9

資料：CONAB

注：2021年6月10日公表データ。

(調査情報部 井田 俊二)